

# 視察研修まとめ

## (山形県川西町)

令和元年9月4日

魚津市自治振興会連合会

## ○7月24日（水）川西町吉島地区交流センター

(1) 全世帯加入による住民主体の地域づくりについて

(特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク事務局長 高橋由和)

きらりよしじまネットワークが誕生した背景は、平成15年に川西町が財政状況の逼迫を背景に、町内7地区に1館ずつ設置されていた地区公民館から行政職員を引き上げ、公民館の運営を地域に委ねるといった改革を断行したことがきっかけであった。地区公民館が公設民営化となった際、地域の今後を憂慮した住民が集まり、地域内の各種団体の関係や資源などを振り返り、これまでの各種団体の見直しを図り、ひとつにまとめ会計も一元化している。



地域づくりを組織的・計画的に推進する体制を構築するためには将来ビジョンが必要と30年先の地域をとらえた地域計画を、住民ワークショップを重ね策定した。

現在、自治部会、福祉部会、環境衛生部会、教育部会の4部会が5か年計画の下、それぞれ目標を立てて地域づくりを進めている。地域の人材を確保するため、役員や事務局はあて職をなくし、地域の中から選出していた。また、中心となる事務局は、類似公民館長から推薦を受けた方で構成され、平均年齢は35歳、30名で構成されている。4つの部会をメンバー間で分担し運営していた。

(確認した事項)

地域再編	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種団体と会計をまとめて合意形成を一元化</li> <li>2 計画に基づいた地域づくり</li> <li>3 スピードのある課題解決と担い手育成</li> <li>4 全世帯加入 NPO 法人として自立</li> </ol>
地域の把握	コミュニティカルテを作成し住人に周知
地域づくり計画	課題解決を事業化（社会起業）
自主防災	商工会と防災協定を締結（発電機などの提供） 自治会長に無線機を配布（補助事業）
要援護者サポーター	援護登録者数：22名、超高齢：57名 サポーター数：48名（日中）、56名（夜間・休日）
除雪支援	2,000円/回（きらりから自治会に支給）
地域内交流事業	産直交流、世代間交流、高齢者交流

地域外交流事業	出張マルシェ（那覇市 農都交流事業）
起業支援事業	配食等サービス（年間売上1,400万円） 地域食堂、こども食堂（2名雇用）
6次産業化	加工研究所の設置 ・おもてなし料理の開発 ・地域食材のメニュー開発 ・加工商品の開発
若者の活動支援	百笑一揆（農業支援、農作物販売など）14名（半分はUターン者） 高齢者（農業）の所得向上
地域環境保全事業	資源ごみ回収、食用油のBDF化、花壇環境整備
学童保育事業	児童数86名2クラス制、19:30まで（第1・3土曜）
よしじまっ子おはよう隊	通学時に高齢者宅の見守りを行う。
よしじま燦燦塾	高齢者対象の料理教室など
居場所づくり	集めるだけではなく、自然と集まるような居場所をつくる（高齢者対象）。
買い物支援	電話やスマホで注文し、配送。4つの商店と連携。広域連携も。
生活支援有償ボランティア	「生活支援お助けチケット事業」たすけ愛きらり 500円/30分（1割はきらり、のこりは本人）
AI・ICT活用の生活支援	見守り、生活支援コミュニティスキルの開発
買い物お出かけサービス	バスを利用し、ショッピングセンターでの買い物支援
青少年育成事業	キッズジョブスクール、わんぱくキッズスクール、中高年ボランティア育成、青年ボランティア育成
担い手育成	地域福祉の教育は地域の役割
幼・小・中・高合同連絡会議	児童や生徒とその保護者等が自主的に地域活動や学校運営に参加し実社会とのかかわりを体験したり、社会性を身につける機会を提供。 子どもたちが戻ってこられるようなまちにする。
再チャレンジ塾	一線を退いた方に講師になってもらい、塾を開催する。
地域づくりに必要な柱	1 合意形成 2 ひとつづくり 3 資金作り 4 つながる（内と内、内と外、外と外）

合意形成の流れ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 WS・アンケート・各小委員会（住民の声を聴く、拾う場）</li> <li>2 事務局会（課題集約・解析・事業の企画立案）</li> <li>3 理事会（事務局の提案を精査する場）</li> <li>4 総会（地域づくりのすべてを決議）</li> </ol> <p>※ピラミッド型ではなくフラット型 ※PDCA を実践</p>
人づくりの組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーター、プレーヤーの育成（組織を運営するため）</li> <li>・有識者・有資格者の講義</li> <li>・きらり教育部会（2年）→事務局研修生（2年）→マネージャー→理事→地域へ</li> </ul>
資金づくり	<p>予算約 6,000 万円 「助成金は助走金」</p> <p>視察研修寮、研修講習料、産直売上げ、販促売上げ、地域活動支援事業として、自治会、助成活動、福祉活動、青少年活動に補助している。</p>
関係人口	<p>よそ者の力を借りる。インターンシップ、課題解決活動（WS）等に参加。</p>
地域を法人化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の視点と知識</li> <li>・住民がまちづくり計画をつくり共有</li> <li>・多様な財源確保</li> <li>・対等な協働の実践</li> </ul>
地域創生	<p>＝地域運営組織づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 多機能性→「小さな自治」「小さな役場」</li> <li>2 補完性→集落（自治会）を補完 集落＝「守りの自治」 地域運営組織＝「攻めの自治」</li> <li>3 革新性→今までと違う形で未来を切り開く ↓ 行政の押し付けではない地域運営組織の形成 （住民が疲れない、「やらされ感」をもたない）</li> </ol>
今後	<p>地域人口減 → 関係人口増</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 働き盛りの第二の青年団づくり</li> <li>2 高齢でも元気な第三の青年団づくり</li> <li>3 高齢者へやさしい地域づくり</li> <li>4 子育てしやすい地域づくり</li> </ol>

	5 子供たちが戻れる地域づくり 6 外の人のあこがれの地域づくり 原則 ①内発性（自分たちの想い） ②多様性（地域のみんなで） ③独自性（横並びしない） ④改革性（ちがうカタチで）
--	--

## ○7月25日（木）川西町吉島地区交流センター

### (1) 持続可能な地域コミュニティ（川西町役場まちづくり課 金子満博）

川西町の概要や現状、地区公民館から地区交流センターへの移行などの説明を受けた。川西町は平成16年にまちづくり基本条例を策定し、自主自立による地域の経営を地区の役割とし、地区経営への支援を行政の役割として定めている。現在、町の支援として、①財政支援、②人的支援、③体制支援、④人材育成支援を行っている。中でも、人材育成支援として「まちづくりマイスター養成講座」や「若者未来塾事業」など、人口減少に対応するため人材育成対策に力を入れていた。



吉島地区交流センター



地域食堂（センターに併設）